

小杉駅周辺地区の課題及び まちづくり方針案について

令和2年10月26日（月）

小杉駅周辺地区まちづくり基本構想策定協議会

- 1 高等教育機関WEBアンケート集計結果概要
- 2 小杉駅周辺地区まちづくりワークショップの結果について
- 3 小杉駅周辺地区の課題及びまちづくり方針案について

1 高等教育機関WEBアンケート集計結果概要

アンケート調査の概要

① 調査対象

- ・射水市内 4 つの高等教育機関の学生及び教員
- ・県立大学看護学部（富山市）の学生

高等教育機関名	学生数	教員数
富山県立大学	工学部 1,337人 大学院 182人 看護学部 243人	141人
富山高等専門学校（射水キャンパス）	332人	58人
富山福祉短期大学	431人	34人
富山情報ビジネス専門学校	290人	21人
合計	2,815人	254人

② 調査方法

WEBアンケート

③ 実施期間

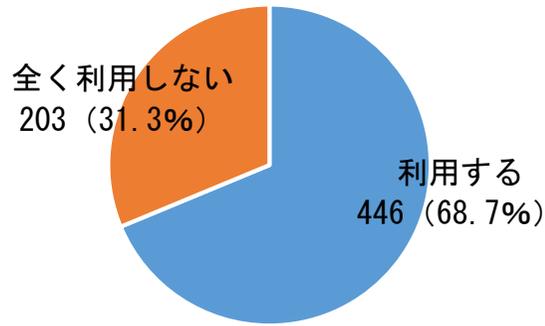
令和2年8月17日（月）～8月28日（金）

④ 回答数（回答率）

	対象者数	回答数（回答率）
学生アンケート	2,815人	649人（23.1%）
教員アンケート	254人	106人（41.7%）

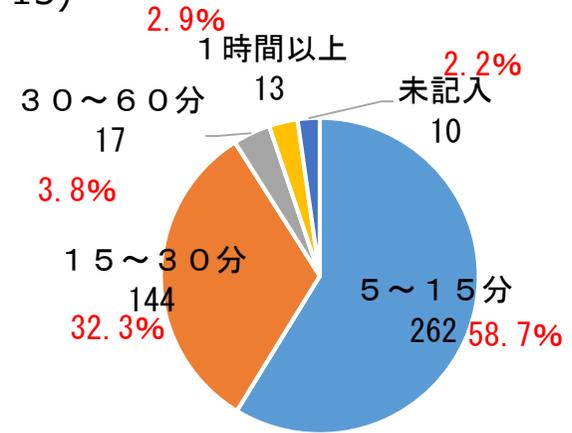
学生の小杉駅の利用状況（１）

小杉駅の利用の有無
(参考資料1 P2)

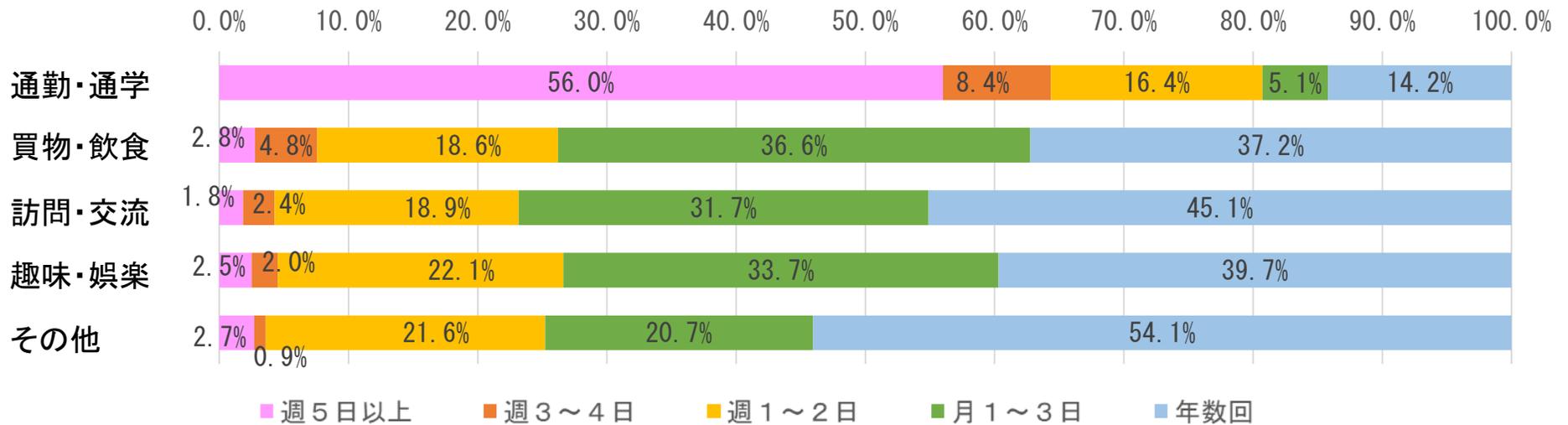


n=649

小杉駅での滞留時間
(参考資料1 P15)

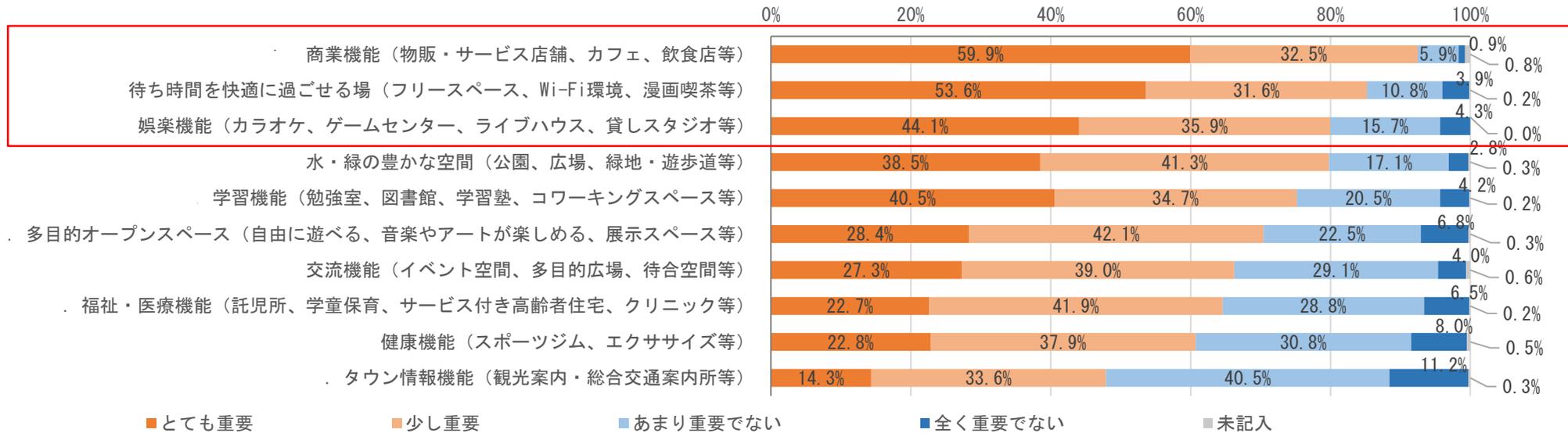


小杉駅利用者の目的別利用頻度 (参考資料1 P6)

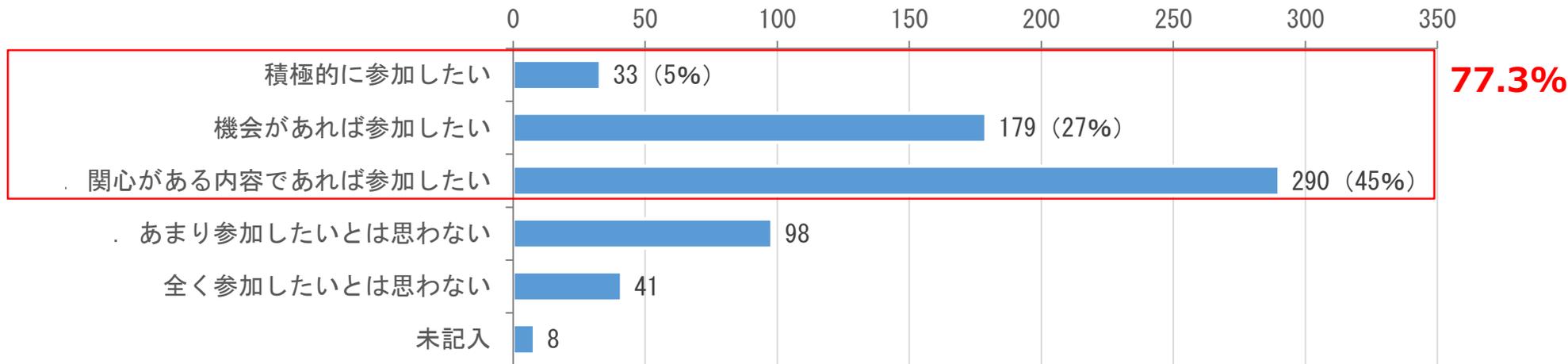


学生の小杉駅の利用状況（2）

学生が小杉駅周辺に足りないと思うもの、欲しいもの（参考資料1 P30）

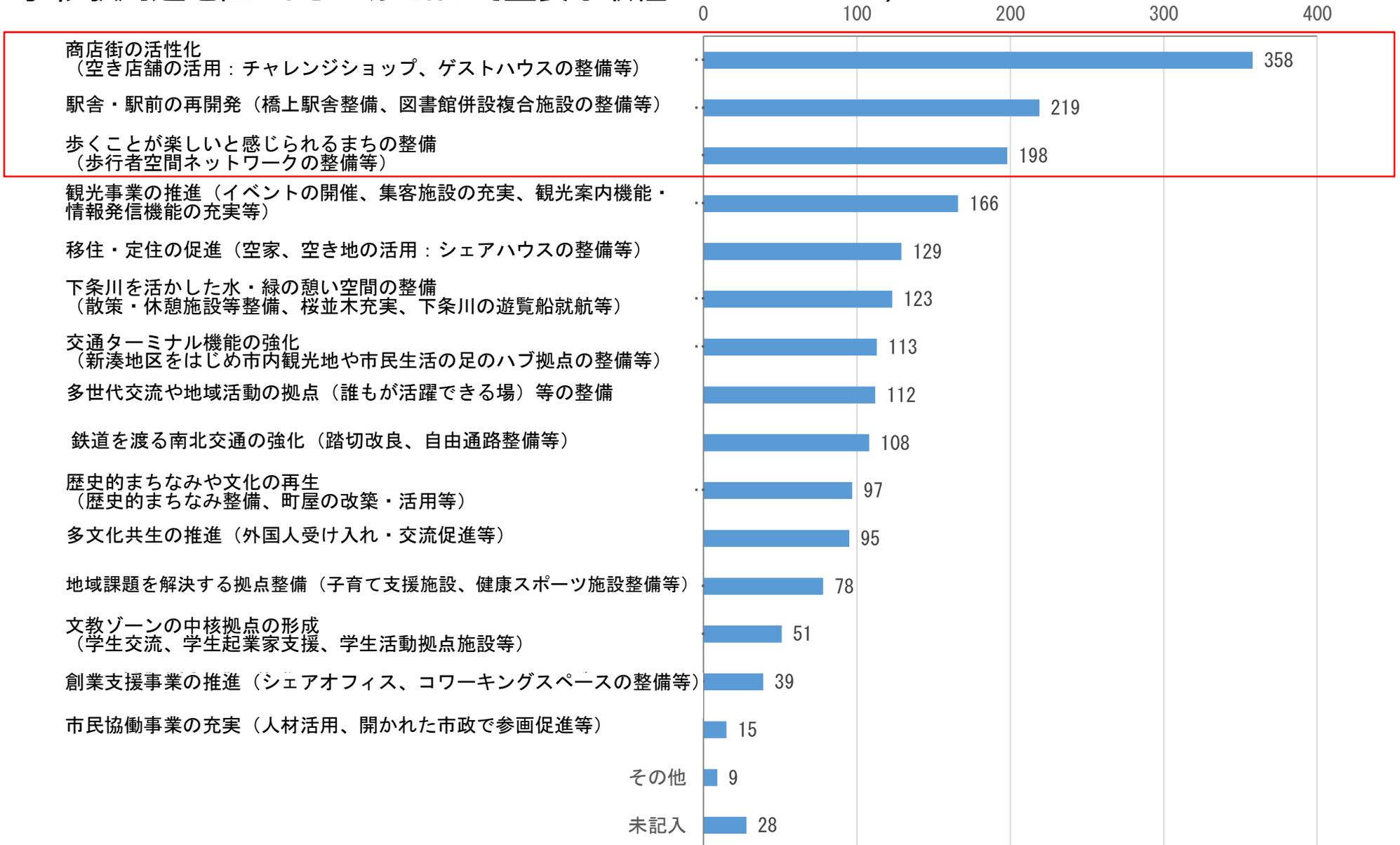


学生のまちづくりの参加意向（参考資料1 P42）



小杉駅周辺地区のまちづくりにおいて重要な取組（学生）

小杉駅周辺地区のまちづくりにおいて重要な取組（参考資料1 P38）



時間を過ごすことができる商業施設や娯楽施設に関する意見【68件】

- ・若者が立ち寄りおしゃれなカフェや娯楽施設が増加すればさらにフレッシュなまちになる。
- ・学生が集まれる場所がない。等

交通機能に関する意見【26件】

- ・電車やバスの乗り継ぎがしやすくなれば射水市を訪れやすくなり活気が出ると思う。
- ・シェアサイクルをまちの各地に配置してほしい。等

生活道路に関する意見【19件】

- ・駅の近くの踏切を歩行者や自転車が通りやすいようにしてほしい。
- ・まち歩きのための駐車場を整備してほしい。等

駅に対するイメージ・駅の設備に関する意見【18件】

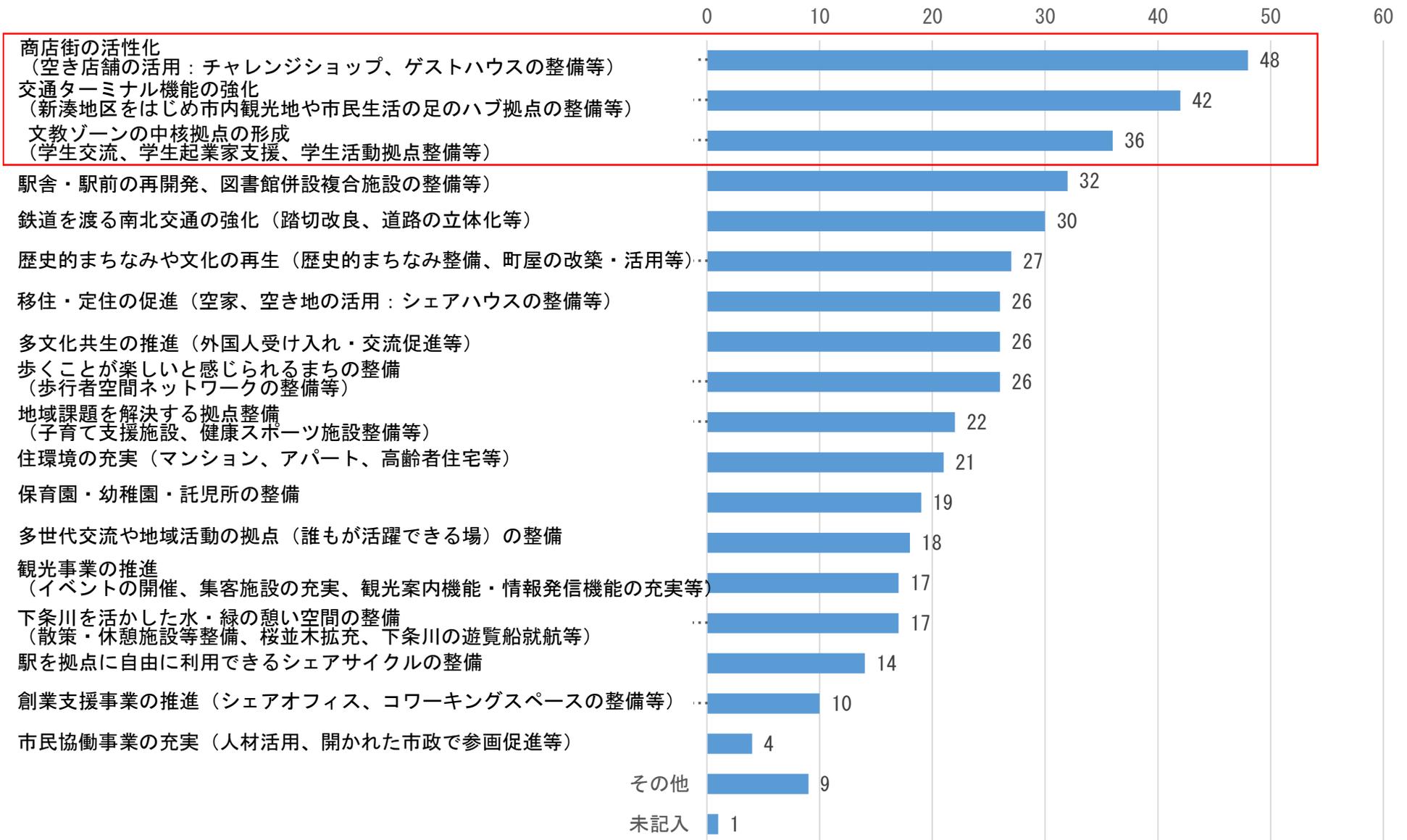
- ・小杉駅北側に行こうと思えるような施設、空間や仕組みが必要だと思う。
- ・県内外企業のサテライトオフィスの設置。等

その他の意見【12件】

- ・駅の外観が古く、改装又は市の特徴を活かせる工夫が必要。
- ・駅としてしか利用されていない。何か付加価値のある駅にしてほしい。等

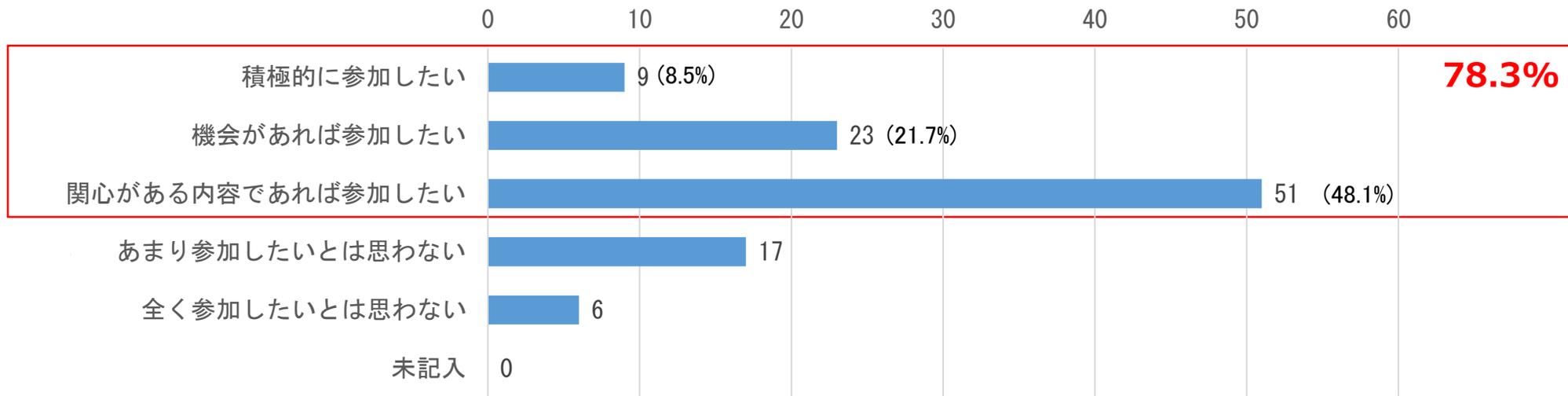
小杉駅周辺地区のまちづくりにおいて重要な取組（教員）

小杉駅周辺地区のまちづくりにおいて重要な取組（参考資料1 P57）

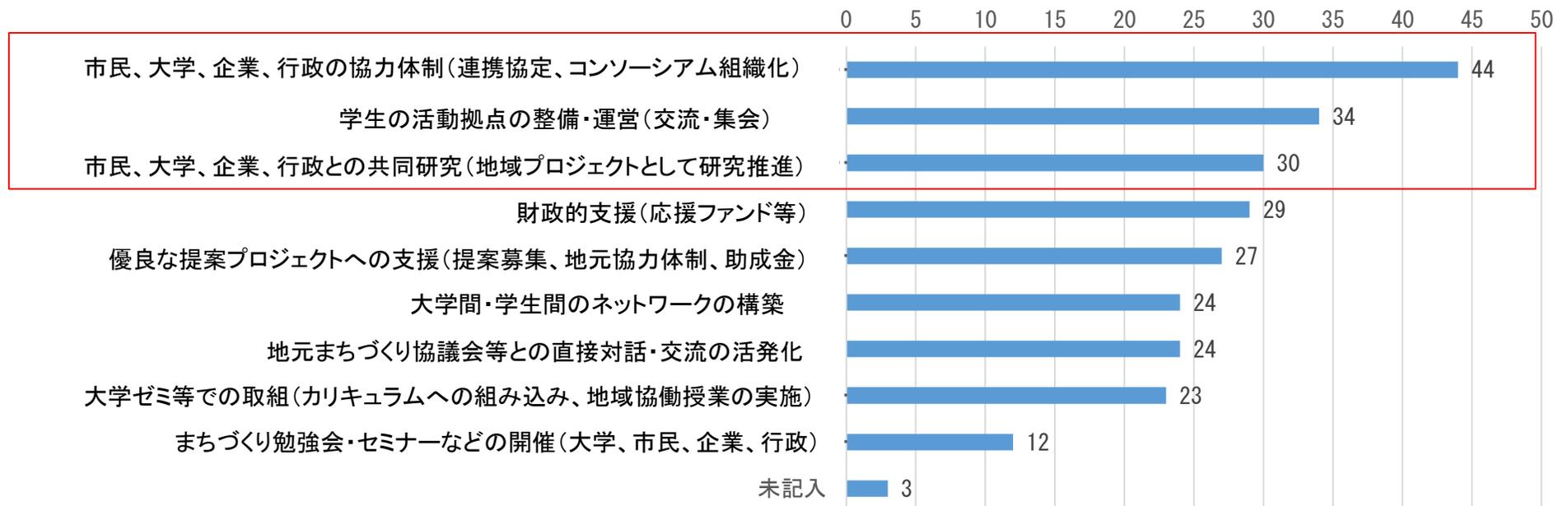


教員のまちづくりへの参加意向/まちづくり活動促進のための取組

教員のまちづくりの参加意向(参考資料1 P58)



まちづくり活動への参加を促進するために必要な取組 (参考資料1 P61)



店舗の誘致等に関する意見

- ・駅周辺で立ち寄りたいたいと思える店がないため、電車の時間に合わせて駅に向かっている。商店街の活性化や街歩きしたいと思えるまち並みや飲食店があればいいと思う。等

地区の魅力づくりに関する意見

- ・駅北側の歴史的まち並みや、点在する小規模店舗、酒屋等は十分まち歩きの際に魅力的だと思う。小規模フェスやマルシェを開催して、駅周辺に多く住んでいる学生等が集まれるようにすればより活気づくのではないかと思う。
- ・竹内源造記念館や旧小杉郵便局等の保全・活用だけでなく、古民家を積極的に保存し、街並みの雰囲気を持続しつつ、新たなビジネスを呼び込む余地がある。等

交通の改善に関する意見

- ・公共施設(図書館等)や商業施設は小杉駅および周辺地区内にあるのに、これらを巡るのが不便である。駅と周辺施設、あるいは各施設を効率よく結ぶような交通網があれば、地域全体の活気が増すのではないかと考える。
- ・可能であれば自動運転等の先進的な実証実験を行ってほしい。等

学生の参加等に関する意見

- ・学生や地域の方の意見等を取り入れ、より良いまちづくりができればよいと思う。等

その他の意見

- ・これからの若い世代の意見(大学生等)を取り入れて進めてほしい。
- ・行政からの積極的なかかわりを希望する。等

2 小杉駅周辺地区まちづくりワークショップ結果について

小杉駅周辺地区まちづくりワークショップの結果

○目的：小杉駅周辺地区まちづくり基本構想を策定するにあたり、地域のまちづくりに対する住民の意見や思いを把握し、計画に反映する。

○対象者：戸破地区、三ヶ地区の代表者
(地域振興会役員、町内会長等、若手世代の代表者等)

地区名	参加者
戸破地区	41人
三ヶ地区	26人

○会議方式：4つのテーマ（まちづくりの4つの施策の方向性）を設定し、4つのグループに分かれて、1グループ1テーマについて、ワークショップ形式によるグループ討議を行った。

- 1 小杉駅を中心とした都市機能の集積とにぎわいの形成
- 2 安全性、利便性の高い居住環境の維持・充実
- 3 道路・公共交通ネットワークの強化
- 4 地域の豊かな歴史・文化、自然環境の保全と活用

○実施日：戸破地区（令和2年8月28日）、三ヶ地区（令和2年8月29日）

3 小杉駅周辺地区の課題及びまちづくり方針案について

小杉駅を中心とした都市機能の集積とにぎわいの形成

地域の特性

- ・駅南側に大型商業施設が立地している。
- ・小杉駅は県内3番目の乗降数(約6,000人/日) 等



現況と課題【ワークショップ等の意見】

- 商業施設や魅力等の不足
- ・駅に売店がない。キオスク等がなくなって駅が寂しい。
- ・駅と近隣商店や地域とのつながりがない。
- ・駅周辺に若者が集まる所が少ない。学生が集まるような商店や飲食店が少ない。 等



ワークショップで提案された解決に向けたアイデア

- 駅の複合化
- 商店街ネットワークの形成
- 魅力的なサービス機能の整備
- 学生等が利用しやすい空間や交通機能の充実



まちづくり方針

1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成

地域の特性

- ・富山市、高岡市の中間に位置
- ・区画された良好な住宅環境 等



現況と課題【ワークショップ等の意見】

○空き地・空き家・空き店舗

- ・現在の空き地、空き家の把握、今後10年、20年後に空き家となる地域の予測。
- ・空き地、空き家の具体的利用方法を検討すべき。



ワークショップで提案された解決に向けたアイデア

- 空き家等の管理
- 空き家等の利活用（高齢者や子育て世代が集うことができる場の整備、移住希望者への貸出等）



まちづくり方針

2 安全・快適で住みたい市街地環境の整備

道路・公共交通ネットワークの強化

地域の特性

- ・道路、鉄道等多様な幹線交通網が整備
- ・通勤・通学等移動の利便性が高い 等

現況と課題【ワークショップ等の意見】

- バス、タクシーの利便性向上
 - ・コミュニティバスの直通化、速達性を検討してほしい。
- 2次交通への乗り継ぎの利便性の向上
 - ・コミュニティバスと電車との乗り継ぎが悪い。表示が少ない。 等
- 小杉駅の南北交通
 - ・小杉駅の南北が車で往来しづらい。 ・南北連絡地下道の環境が良くない。
- 歩行者の安全性の問題
 - ・駅付近の道路が狭く、歩道と車道の区別がない。

ワークショップで提案された解決に向けたアイデア

- 新たな交通システム等の導入検討
- 観光案内機能の整備
- 南北交通の整備
- 道路の拡幅と安全な歩行空間の整備

まちづくり方針

3 まち・ひと・ものをつなぐシームレスな交通ネットワークの形成

地域の豊かな歴史・文化、自然環境の保全と活用

地域の特性

- ・ 饅絵、小杉焼等地域の伝統や文化の継承
- ・ 藤井右門や竹内源造等の偉人を輩出
- ・ 旧北陸街道のまちなみの景観
- ・ 下条川の両岸に整備された桜並木 等

現況と課題【ワークショップ等の意見】

- 歴史文化への関心度の低さの問題等
 - ・ 歴史や文化への理解が低い。
- 旧北陸街道の現状
 - ・ 旧北陸街道の歴史的風情を活かすまちづくりが必要。
- 下条川の維持・管理
 - ・ 下条川の維持管理が不十分。保全と維持管理が大事。 等

ワークショップで提案された解決に向けたアイデア

- 歴史文化遺産の発信の強化
- モノよりコト(ものづくり体験等の提供)
- 下条川の環境改善
- 下条川を中心とする歩行者ネットワークの整備

まちづくり方針

4 歴史・文化・自然を継承するまち・ひとづくり

(新) 高等教育機関や研究機関との連携したまちづくり

地域の特性

- ・大学、短期大学、高等専門学校等の高等教育機関が多く集積
- ・県環境科学センター、県薬事総合研究開発センター等研究機関が集積 等



現況と課題【ワークショップ等の意見】

○学生のまちへの取り込み

- ・駅から学校までの通学路を多くの学生が歩いているが、どのようにしてまちに取り込むか。
- ・大学の授業で地域活性化につながることに取り組みたい。
- ・まちづくりに若い世代の意見を取り入れてほしい。 等



ワークショップで提案された解決に向けたアイデア

- 学生にまちに興味をもってもらう取組
- 学生の動線(通学路)とまちなか回遊路のネットワーク化
- 学生の地域における活動の場の創出



まちづくり方針

5 「知」の拠点とともに創る次世代のまちづくり

小杉駅周辺地区のまちづくりの将来像

第2次射水市総合計画基本理念

「豊かな自然 あふれる笑顔 みんなで創る きららか射水」

都市計画マスタープランまちづくりの方針

「居住・産業・レクリエーションと自然が調和する 暮らしやすさと活力に満ちたまち」

都市中核拠点（小杉駅及び本庁舎周辺）

居住や交流の中心地として、多様な都市機能の立地誘導を推進し、人口の集積を維持しながら、都市生活の利便性や快適性を向上させ、にぎわいを創出する拠点。公共交通ターミナル等機能等の都市の中核機能の集積を図り、各拠点同士の連携や相互活性化を促進。



小杉駅周辺地区の将来像（基本コンセプト）

「地学連携により人が集い文化を育むいみずのエントランスエリア」

※地学連携：地域と高等教育機関や学術研究機関の連携を表す造語

小杉駅周辺地区は都市中核拠点のコアエリアとして位置付けられ、居住や交流の中心地で鉄道や道路、バス等の交通ネットワーク活かした、都市や人、モノをはじめとしたあらゆるものの結節点である。また、駅を中心に高等教育機関や研究機関等が集積しており、北陸街道の宿場町として発展した歴史や伝統文化が継承されている。このことから、地域特性を活かしながら、これらの地域資源を交通ターミナルを中心につなぎ合わせ、人や学生と研究者、地域と高等教育機関や研究機関との連携を深め、今後のまちの姿を創造しながら協働によるまちづくりを行うことで、地域に活力をもたらしながら本市のエントランスエリアとしてにぎわいの創出や地域活性化を目指す。

【将来像】

「地学連携により人が集い文化を育むいみずのエントランスエリア」

※地学連携：地域と高等教育機関や学術研究機関の連携を表す造語

【方向性】

- 1 射水市のエントランスエリアとして、産業・サービス施設等の立地誘導による駅が多機能複合化を図り、にぎわいを創出する。
- 2 利便性の高い交通ネットワークを形成し、産業集積地域や住宅地、観光地へのアクセスを向上させ、都市中核拠点としての機能の充実を図る。
- 3 高等教育機関や研究機関等との連携を強め、それらの機関や学生、研究者と地域とをつなぎ、協働によるまちづくりを行うことで地域活性化を目指す。
- 4 地域住民が主体となり、歴史や文化を育むまちづくりを推進し、後世に継承する。

小杉駅周辺地区のまちづくり方針

1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成

- (1) アクセシビリティ・集客力を活かした都市機能の充実
- (2) 子育てしやすいステーションエリアの創造
- (3) 文教ゾーンとしてのにぎわいの創出

2 安全・快適で住み続けたい市街地環境の整備

- (1) 空き地・空き家のリノベーションによる多様な活用
- (2) 多様な世代に選ばれる安全・快適な住環境の整備
- (3) 多文化が共生するバリアフリー社会の創造

3 まち・ひと・ものをつなぐシームレスな交通ネットワークの形成

- (1) 交通ターミナルの整備とネットワークの強化
- (2) 鉄道を横断する南北交通の強化
- (3) 生活道路の改良・整備

4 歴史・文化・自然を継承するまち・ひとづくり

- (1) 歴史・文化の継承とまちなみの形成
- (2) 下条川の親水環境・景観の充実

5 「知」の拠点とともに創る次世代のまちづくり

- (1) 学生が主体的に関わる交流・活動の場の創出
- (2) 「知」のプラットフォームとしての拠点の創出

1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリア

1 – (1) アクセス性・集客力を活かした都市機能の充実

駅が持つ広域アクセスの利便性、集客力を活かし、小杉駅及び周辺に多様な都市機能の立地を誘導することで、活気あふれるエントランスエリアの形成を目指す。

具体例

- 駅周辺への商業・サービス施設等の立地誘導
 - 新しいスタイルのワーキングスペースの立地誘導
(サテライトオフィス、コワーキングスペース等)
 - マンション等の住宅環境の整備
 - 駅の多機能複合化
- 等

1 – (2) 子育てしやすいステーションエリアの創造

子どもを安心して産み育てることができる社会の構築を目指し、駅へのアクセス性を活かして子育て支援機能の充実を図り、より子育てしやすいまちづくりを推進する。

具体例

- 子ども預かり機能の整備
 - 子どもの遊びスペース・見守り機能の整備
 - 高等教育機関と連携した子育て支援機能の整備
- 等

1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリア

1 - (3) 文教ゾーンとしてのにぎわいの創出

市内には4つの高等教育機関が集積し、駅を拠点に通学している。学生にとって居心地の良い空間を整備することで、学生をまちなかに取り込み、にぎわいを創出する。

具体例

- 学生同士の交流拠点の創出
- 学生と地域が交流する場の創出
- 学生寮や学生シェアハウスの整備

等

2 安全・快適で住み続けたい市街地環境の整備

2 - (1) 空き地・空き家のリノベーションによる多様な活用

小杉駅周辺、駅北側には古い建物が多く、居住者の高齢化とともに空き家も増加傾向にある。市街地環境の質の低下を防ぐためにも、良質な空き家等が有効に活用されるよう、不動産の流動化を促進し、地域のニーズも捉えた多様な活用を促進する。

具体例

○ 空き家のリノベーションによる多様な活用促進

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------|
| ・オフィスとしての活用（サテライトオフィス等） | ・居住機能としての再生（住居、シェアハウス等） |
| ・店舗や工房としての活用 | ・チャレンジショップとしての活用 |
| ・コミュニティ施設としての活用（高齢者、子育て世代、子どもの交流の場） | |

等

2 - (2) 多様な世代に選ばれる安全・快適な住環境の整備

小杉駅周辺、駅北側には、道路が狭隘で街区形成が不十分な土地利用効率の低いエリアが存在し、空き家や空き地も多く存在している。これらの土地を有効に活用するため、市街地環境の改善（街区形成、防災性能の向上等）を図り、多世代に選ばれる快適な居住空間の形成を目指す。

具体例

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ○ エリアの再整備
（土地区画整理事業、市街地再開発事業等） | ○ 高齢者向け住宅の整備
（サービス付き高齢者住宅の整備等） |
| ○ 移住者や学生向け住宅の整備 | ○ 子育て世代向けの住宅の整備 |

等

2 安全・快適で住み続けたい市街地環境の整備

2 - (3) 多文化が共生するバリアフリー社会の創造

本市は、人口に占める外国人の割合が県内で最も高く、今後も外国人の人口増加が見込まれる。外国人住民と地域との相互理解の促進を図り、外国人住民も住みよい地域空間の形成を目指す。

具体例

- 多様な言語、多様な媒体による行政・生活情報の提供
- ハラル食材の販売店、飲食店の立地誘導
- 多文化共生の拠点づくり
- 外国人向け生活支援相談窓口の設置

等

3 まち・ひと・ものをつなぐシームレスな交通ネットワークの形成

3 - (1) 交通ターミナルの整備とネットワークの強化

小杉駅は本市の玄関口として、産業集積地域や住宅地、観光地へのアクセスの向上が求められる。駅を中心とした交通の拠点整備を進めるとともに、積極的にICT、IoT技術を活用することにより、シームレスで利便性の高い交通ネットワークの確立を目指す。

具体例

- 快適な待合環境の整備
- 新たな技術を活用した交通システムの導入
- パーク&ライド、まち歩き等に対応できる駐車場の整備
- 2次、3次交通への利便性の向上
- シェアサイクルステーションの整備

等

3 - (2) 鉄道を横断する南北交通の強化

駅周辺には、踏切や地下道が整備されているが、南北の往来がしにくい状況である。このことから、歩行者の安全な歩行通路の整備とスムーズで安全な南北交通の実現を図る。

具体例

- 小杉駅の自由通路の改善・整備
(小杉駅の橋上化やペDESTリアンデッキの検討、地下通路のリフレッシュ等)
- 南北道路の安全性確保 (踏切の拡幅、歩道の設置等)
- 道路のアンダーパス、立体交差化等の検討

等

3 まち・ひと・ものをつなぐシームレスな交通ネットワークの形成

3 - (3) 生活道路の改良・整備

狭隘な生活道路について安全・快適性の面から、道路の拡幅、歩道の設置等を進める。

具体例

○ 歩道の設置及び歩道の拡幅

○ 歩道・自転車レーンの設置

○ バリアフリー化の推進

○ 狭隘道路の拡幅

等

4 歴史・文化・自然を継承するまち・ひとづくり

4 - (1) 歴史・文化の継承とまちなみの形成

小杉駅周辺地区は、北陸街道の宿場町として発展し、鍍絵や小杉焼等の伝統文化が継承されている。これらの文化資産や郷土の歴史等を継承し、情報発信を行うことで、地域の魅力向上を図る。

具体例

- 歴史・文化資産の保全
 - 地域の歴史や文化の継承
 - 歴史的まちなみ形成の誘導
 - 情報発信機能の整備
- 等

4 - (2) 下条川の親水環境・景観の充実

伊勢領橋から大江橋までの下条川の両岸に整備された約2,7kmにわたる桜の散策路は、開花時期には桜並木が美しく彩られる。また、区画された良好な住宅環境に隣接し、ポケットパーク等の公園や緑地が整備されている。これらの景観の魅力を一層高め、歩いて楽しい水辺環境の整備を図る。

具体例

- 散策路の整備
 - 親水デッキ等の整備
 - 四季が感じられる空間の形成
 - 下条川の維持管理
- 等

5 「知」の拠点とともに創る次世代のまちづくり

5 – (1) 学生が主体的に関わる交流・活動の場の創出

高等教育機関が集積している強みを活かし、学校の垣根を超えた学生活動の場を地域に創出することで地域との関係を強化し、課題解決につなげる。また、学生がまちづくりに関わることで、定住の促進や、関係人口の創出を図る。

具体例

- 地域と学生との交流の場やまちづくりに関わる機会の創出
- 大学のカリキュラムと連携する等のフィールドワークの拠点づくり
- 駅及び駅周辺に学生の取組を発信できる拠点を整備
- 留学生の地域参加拠点の創出

等

5 – (2) 「知」のプラットフォームとしての拠点の創出

高等教育機関も含めた研究機関同士のネットワークを県内外に広げる仕組みづくりを推進することでまちづくりの可能性を広げ、地域の課題解決やまちの活性化につなげる。

具体例

- 産学官・地域連携の拠点の整備
- 市内高等教育機関のコンソーシアムの設置の検討

等